

トラック輸送情報（平成17年10月分）

平成18年1月6日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：高橋、荒木、荒井 内線28315

直通：03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

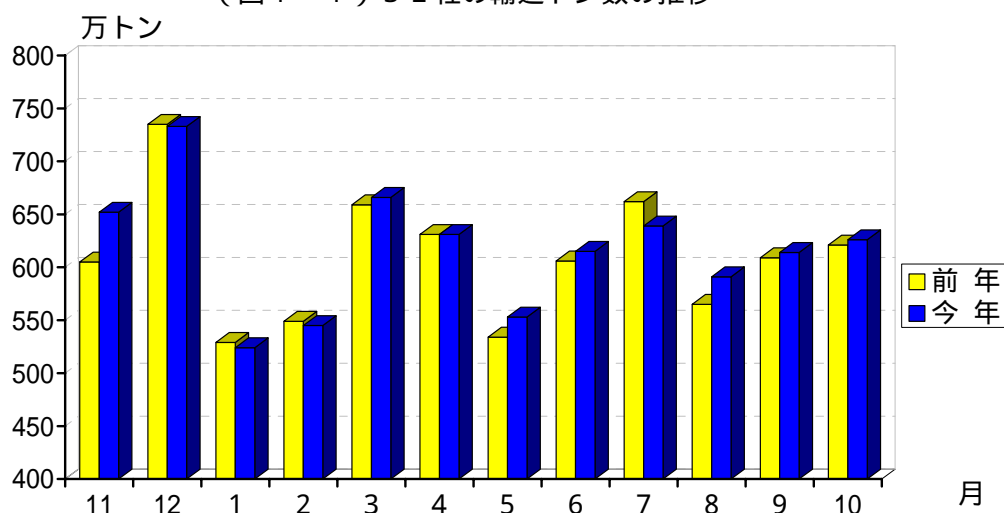
(1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、6,260,882トンで、前月と比べ、総輸送量が約12万トン増加したため、前月比102.0%（季節調整済み103.1%）前年同月と比べ、約5万トン増加したため、前年同月比100.9%の実績であった。（注：9月の輸送量は、6,137,213トンに変更になりました。）

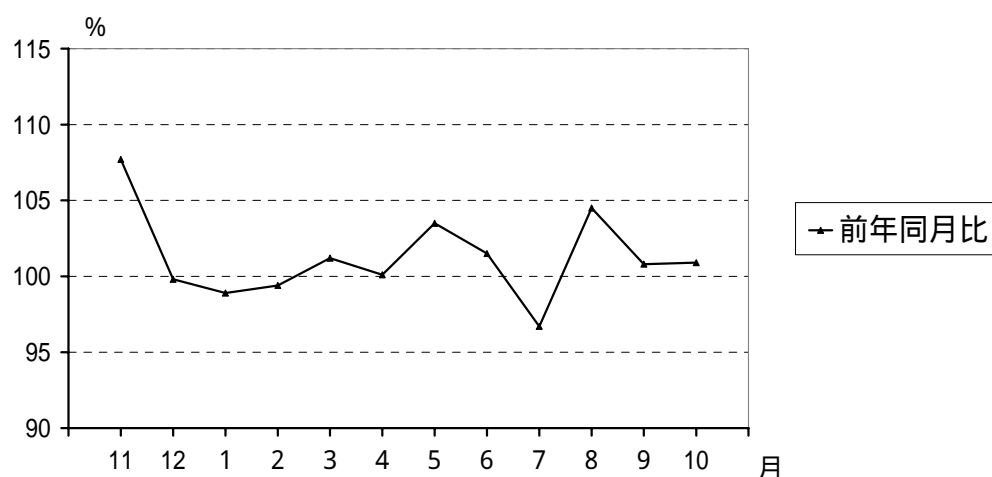
なお、平均稼働日数は24.3日で、前月と比べ0.6日の増加、前年同月比では増減はなかった。稼働1日当たりの輸送量は、257,649トンで、前月と比べ、約1千トン減少したため、前月比99.5%、前年同月と比べ、約2千トン増加したため、前年同月比100.9%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

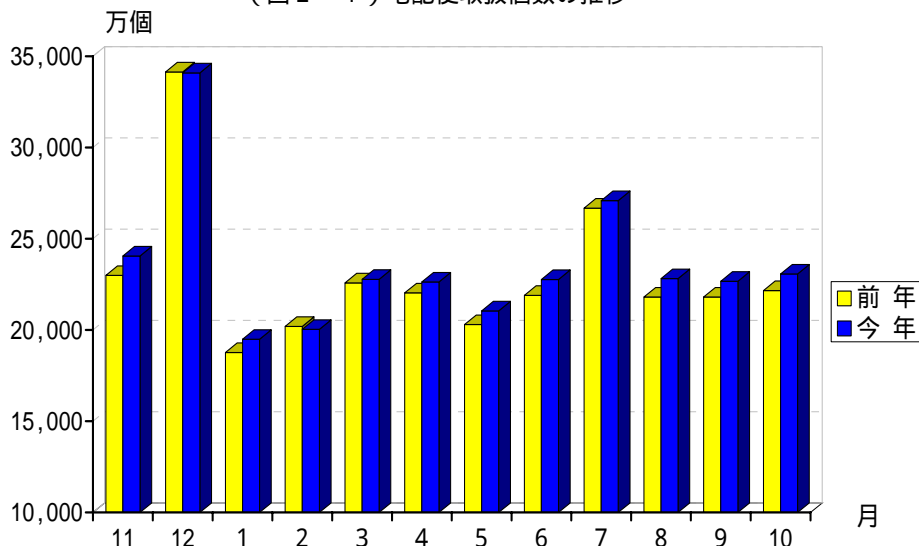


(2) 宅配便の概況

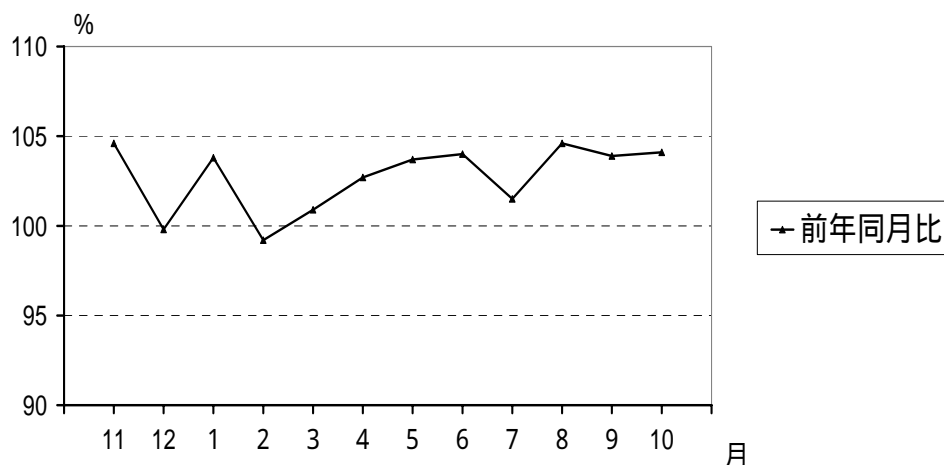
調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、230,682 千個で、前月と比べ、約 402 万個増加したため、前月比 101.8% (季節調整済み 96.2%) 前年同月と比べると、約 909 万個増加したため、前年同月比 104.1%の実績であった。(図 2 - 1、図 2 - 2 参照)

(注)平成 17 年 2 月より調査対象のうちの 1 社が宅配便の扱いを中止したため、宅配便調査対象が 19 社となっている。なお、当該事業者の宅配便におけるシェアが小さく(平成 17 年 1 月で全宅配便個数の約 0.02%)、影響が小さいことから、前年同月比は 20 社のデータと比較している。

(図 2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、稼働日数が増加したこともあり、全般的に貨物量が増加した。理由としては、工場・生産地からの貨物増であった。また、日用品では、商社・問屋からの貨物増も見られた。地域的には、金属製品が関東、繊維工業品が近畿、中国、食料工業品が福岡、その他(宅配便)が神奈川、関東を中心にそれぞれ増加した。

前年同月と比べると、農水産品で工場・生産地からの貨物増が見られた。一方で、繊維工業品で工場・生産地からの貨物減が見られた。また、その他(百貨店配送品)では、デパート・スーパーからの貨物減が見られた。地域的には、農水産品が中国、金属製品が北陸信越、大阪、福岡、化学工業品が中部地方を中心にそれぞれ増加した。一方で、繊維工業品が関東、中国、食料工業品が関東、中部、大阪、日用品が東北、東京、関東、四国、その他(百貨店配送品)が大阪、中国を中心にそれぞれ減少した。この結果、全体としては対前年同月比 100.9%となった。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因		
	著増	増	変らず	減	著減					
前 月 に 比 べ て	農水産品	2	2	12	1	1	米		4	
							青果物		8	
	金属製品		4	21		2	その他の金属製品	関東	4	
	機械	1	2	23		2	機械部品			
							その他の化学工業品	関東	1、4、7	
	化学工業品		6	21		2			4	
							織物	近畿、中国	4	
	繊維工業品		4	24		1				
						加工食品	関東、福岡			
	日用品		5	21		3	書籍・印刷物、文具	近畿	4、5	
							その他の日用品	四国		
	その他	1	6	20		1	宅配便	神奈川、関東		
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1	2	13		2	青果物	中国	4	
	金属製品		4	18		5	その他の金属製品	関東、北陸信越、大阪、福岡	4	
							その他の金属製品		4	
	機械		2	23		2	1	機械部品		4
								その他の化学工業品	関東、中部地方、中国、福岡	1、4
	化学工業品		4	17		8		合成樹脂、その他の化学工業品	神奈川、関東、兵庫	4、7
	繊維工業品		1	23		5		糸、織物	関東、中国	4
								製造食品、その他の食料工業品	神奈川、中国、福岡	7
	食料工業品		5	17		5	1	その他の食料工業品	神奈川、関東、中部、大阪	7
								神奈川、関東、九州	4、9	
	日用品		3	17		7	1	書籍・印刷物、衣服、その他の日用品	東北、東京、関東、四国	1、4
								関東		
	その他		3	19		6		百貨店配送品	神奈川、関東、大阪、中国	2

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2 . 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 819 社 / 調査対象事業者数 1,069 社）の輸送量は、前年同月比 99.9%、前月比 102.1%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	99.9%	99.5%	98.7%	103.0%	103.3%	101.0%	92.2%	98.6%	99.8%	104.4%	91.3%
前 月 比	102.1%	103.4%	103.7%	100.7%	101.9%	101.1%	95.2%	99.2%	100.6%	106.7%	108.0%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、各種工事が引き続き順調に推移し、「砂利・砂・石材」等の工事関連資材の輸送が増加した。また、「その他の農産品（ビート）」及び「野菜・果物（玉葱・馬鈴薯等）」等農産物の収穫期を迎えたことにより、対前月比 103.4%と増加を示した。対前年同月比は 99.5%であった。今後の見通しは、時期的に工事関連資材の輸送量の減少が予想され、次月及び以降とも減少傾向で推移するものと思われる。</p>
東北	<p>本月の輸送は、気候が涼しくなってきたことから飲料等の「食料工業品」の減少がみられたが、収穫期に指しかかったことから、「穀物」「野菜・果物」の輸送量が増加し、また、建設工事が増加したことから「セメント」の輸送量が増加した。このため、対前月比 103.7%となった。対前年同月比は 98.7%であった。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向にある。</p>
関東	<p>本月の輸送は、建設関係の需要減などから「その他の製造工業品」の輸送が減少した。また、「その他の農産品」及び「日用品」が減少した。一方、「水産品」、「動植物性飼・肥料」の輸送が増加したことから、全体では対前月比は 100.7%とほぼ横ばいとなった。対前年同月比は 103.0%であった。今後の輸送の見通しは、次月及び以降とも減少傾向と予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、前月に引き続き収穫期による「穀物」の増加が目立った。また、新潟県中越地震の復旧工事をはじめ各種工事の関係で、「鉄鋼」「砂利・砂・石材」等の土木関係の品目で輸送量の増加が見られることから、対前月比 101.9%、対前年同月比 103.3%と、ともに増加した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともほぼ横ばい傾向にあると思われる。</p>
中部	<p>本月の輸送は、出荷時期の終了により「野菜・果物」の輸送が減少したのをはじめ、「化学薬品」、「日用品」等が減少した。一方、建設工事による貨物量の増大などにより「セメント」、「その他窯業品」等が増加したことから、対前月比 101.1%、対前年同月比 101.0%となった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともほぼ横ばいと見込まれる。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、気候が涼しくなったことにより「食料工業品（飲料）」が減少した。一方、「日用品」はデパート・スーパーの需要増等により増加した。この結果、対前月比 95.2%、対前年同月比 92.2%と、ともに減少した。今後の輸送見通しは、冬季需要により「日用品」等の輸送が増えていくことが予想され、全体の輸送量としては、次月は増加するものと思われるが、以降は横ばいであると思われる。</p>
中国	<p>本月の輸送は、「野菜・果物」「食料工業品」が収穫時期が終了したことにより減少している。また、「木材」「セメント」などは公共工事の発注が減るなどの理由により減少している。一方、「金属製品」「その他の製造工業品」などが増加した。この結果、対前月比 99.2%とほぼ横ばい、対前年同月比は 98.6%であった。今後の見通しについては、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
四国	<p>本月の輸送は、建設関係の増加により「砂利・砂・石材」「鉄鋼」「その他の窯業品」が、季節的需要の増加により「野菜・果物」「紙・パルプ」等が増加した。一方、「穀物」「食料工業品」「輸送用容器」などが減少した。このため、対前月比 100.6%、対前年同月比で 99.8%とほぼ横ばいであった。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも若干の増加傾向にあると思われる。</p>
九州	<p>本月の輸送は、「穀物」「野菜・果物」が収穫期による需要増により輸送が増加し、また、「砂利・砂・石材」、「セメント」が公共工事等の増加により輸送が増加した。一方、「食品工業品」は飲料の季節的需要の減少に伴い減少した。この結果、全体では対前月比は 106.7%と増加した。対前年同月比でも 104.4%と増加した。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向にあると思われる。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、季節的な要因により「取り合せ品（引越貨物）」「日用品（年賀はがき）」「穀物（米）」が、また、建設工事に伴う需要により「金属製品（建築用資材）」の輸送が増加したのをはじめ、「食料工業品（冷凍食品）」の輸送が増加した。一方、「野菜・果物（ゴーヤー）」の輸送が減少した。このため、対前月比 108.0%、対前年同月比 91.3%となった。今後の見通しについては、次月及び以降とも増加傾向にあると予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局										
		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	1	9	0	4	0	0	2	0	5	1	22
	減	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	4
2. 野菜・果物	増	4	2	0	3	0	0	0	3	9	0	21
	減	0	3	0	0	1	1	2	2	1	1	11
3. その他の農産品	増	12	0	0	0	1	0	0	1	2	0	16
	減	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
4. 畜産品	増	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
5. 水産品	増	1	0	1	0	1	0	1	1	0	0	5
	減	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3
6. 木材	増	3	1	0	0	0	0	0	0	2	0	6
	減	2	3	0	1	0	0	2	0	0	0	8
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
	減	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
9. 金属鉱物	増	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
10. 砂利・砂・石材	増	13	1	0	2	0	1	1	1	7	0	26
	減	7	1	0	1	0	0	1	0	1	0	11
11. 工業用非金属鉱物	増	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	4
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
12. 鉄鋼	増	1	1	0	3	1	1	2	2	2	0	13
	減	0	0	0	0	1	1	2	0	2	0	6
13. 非鉄金属	増	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	減	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
14. 金属製品	増	1	2	0	1	1	0	2	0	1	1	9
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
15. 機械	増	0	1	1	1	1	2	2	0	1	0	9
	減	0	0	1	1	1	2	2	1	0	0	8
16. セメント	増	4	3	0	1	1	2	1	0	7	0	19
	減	1	0	0	1	0	0	4	1	4	0	11
17. その他の窯業品	増	1	2	1	1	1	1	0	1	0	0	8
	減	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	4

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
18. 揮発油	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	3
19. その他の石油製品	増	1	2	0	1	0	0	3	0	1	0	8
	減	1	0	0	1	0	1	2	0	1	0	6
20. コークス・ その他の石炭製品	増	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21. 化学薬品	増	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	減	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	4
22. 化学肥料	増	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	4
	減	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
23. その他の化学工業品	増	0	0	0	1	0	2	0	0	1	0	4
	減	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	4
24. 紙・パルプ	増	1	2	0	1	0	2	2	2	2	0	12
	減	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	3
25. 繊維工業品	増	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	3
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26. 食料工業品	増	3	2	0	0	0	2	0	1	3	2	13
	減	1	4	0	1	0	3	5	2	6	0	22
27. 日用品	増	1	1	0	0	0	3	1	0	1	1	8
	減	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	4
28. その他の製造工業品	増	0	2	0	0	2	0	2	0	2	0	8
	減	0	2	2	0	1	1	0	0	1	0	7
29. 金属くず	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30. その他のくずもの	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31. 動植物性飼・肥料	増	0	0	1	0	0	0	0	1	4	0	6
	減	2	0	0	0	0	0	1	1	3	0	7
32. 廃棄物	増	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	3
	減	0	0	1	1	0	0	0	0	2	0	4
33. 輸送用容器	増	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
34. 取り合せ品	増	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	5
	減	1	0	1	0	0	1	0	0	1	1	5
35. その他	増	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	3
	減	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3